

ビワ生育情報

第 6 報
千葉県農林水産部
令和 8 年 3 月号

本年は「楠」、「田中」の樹冠の外側で寒害の発生が平年より多くみられています。寒害が発生しやすい園では、比較的被害の少ない樹冠内側の幼果を多く残し、1果房に2果着果させる等して収量の確保を図りましょう。

幼果の寒害及び肥大

ビワ幼果の生存率を表1に示した。樹冠外側の生存率は「楠」は41%、「田中」は67%で平年より低かった。樹冠内側の生存率は「楠」は85%、「田中」は86%で平年並みであった。幼果の肥大は平年並みである。

ビワの幼果は寒害を受けやすく、 -3°C に2時間以上遭遇すると発生が懸念される。館山アメダスでは1月下旬に最低気温 -3.2°C が観測されており、寒害が発生しやすい圃場では特に注意が必要である。

寒害が発生しやすい園では、幼果の生死の判別が容易になる頃から摘果を開始する。果形が細長いもの、肥大が不均一なもの、果皮に張りが無いものは被害果の可能性が高い。被害果の発生が多い園では、被害を受けやすい樹冠外側の幼果は避け、比較的被害の少ない樹冠内側の幼果を多く残すようにする。寒害の被害が大きく、着果数が不足する場合には1果房に2果を目安に着果させ、収量の確保を図る。

表1 ビワ幼果の生存率(暖地園芸研究所)

品種	樹冠の外側(%)			樹冠の内側(%)			内外の平均(%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	41	66	99	85	89	100	63	77	100
大房	-	84	99	-	94	98	-	88	99
田中	67	79	94	86	92	100	76	86	97

調査日：令和8年3月2日

- 「大房」は調査時点で花たくが閉じていないものが多いため未実施

平年：平成10年～令和7年の28年間の平均

令和8年2月の気象

令和8年2月の半旬別の気象を表2に示した。平均気温は平年に比べ、第3～第6半旬は高く、第1、第2半旬は低かった。月平均気温は 9.0°C と平年及び前年よりも 1.9°C 高かった。

氷点下日数は5日で、最低極温は第2半旬で平年よりも低くなった。最低極温は第2半旬の -2.7°C であった。

降水量は第3、第5半旬は平年より多く、その他の半旬は平年より少なかった。月合計は146mmで平年の168%、前年の479%であった。

日照時間は第1、第3半旬は平年より多く、第2、第4～第6半旬は平年並みであった。月合計は172時間で平年の112%、前年の82%であった。

表2 令和8年2月の気象(アメダス館山市)

半旬	平均気温 (°C)			氷点下日数 (日)			最低極温 (°C)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	6.0	6.3	7.0	3	2.0	0	-1.0	-1.8	1.1
2	5.6	6.5	5.6	2	1.6	3	-2.7	-1.2	-2.0
3	9.8	6.9	8.1	0	1.8	2	0.7	-1.5	-2.5
4	8.1	7.3	6.7	0	1.3	2	3.1	-0.7	-3.7
5	12.5	7.7	5.0	0	1.3	5	1.2	-0.6	-3.8
6	11.7	8.1	10.5	0	0.7	0	7.0	1.0	0.5
平均/計/最小値	9.0	7.1	7.1	5	8.7	12	-2.7	-1.8	-3.8

半旬	降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	0.5	12	11.0	40	29	19
2	5.0	11	0.0	28	28	41
3	45.0	13	18.5	31	28	41
4	3.5	17	1.0	28	27	39
5	92.0	20	0.0	29	27	46
6	0.0	14	0.0	17	16	26
計	146.0	87	30.5	172	154	211

平 年：平成3～令和2年の30年間の平均

最低極温：各半旬あるいは2月中に記録した最低気温

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある

4月の作業

4月になると平均気温が一段と高くなって枝葉・根ともに伸長が盛んになり、果実の肥大も急速に進む。3月に続き、摘果・袋かけが重要な作業になる。

摘果・袋かけ

4月に向けて平均気温が高くなり、果実の肥大が進むと擦れ傷、虫害などを被りやすくなるので、摘果・袋かけ作業は幼果の状態を確認しながら早目に進める。

除 草

春草が繁茂する時期になるので、収穫が始まる前に除草を済ませる。草生栽培では、有機物の補給のため草を刈り取って樹冠の周縁に敷くとよいが、労力の足りない場合は除草剤を利用する。

果樹カメムシ類の防除

本年の4～7月の南房総地域における果樹カメムシ類の発生量が中程度と予測されている(令和7年度病害虫発生情報 第4号)。カメムシ類が飛来する量や時期は地域やほ場により差があるので、飛来量が増える4月下旬以降に園内外をよく見回り、飛来がみられた場合には、千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従って防除を行う。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室
電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>